

霧島山

○爆発地震の減衰様式の変化

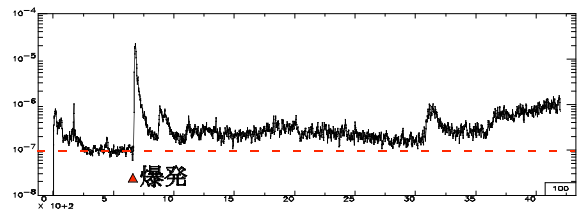
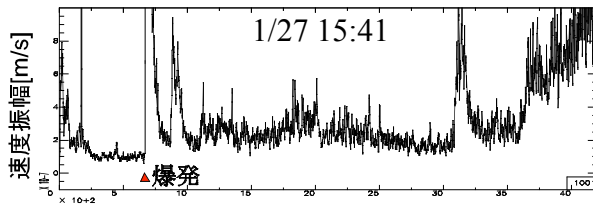
前回の予知連以降では、空振を伴うような爆発的噴火は発生していない。気象庁の発表によれば、4月18日以降は5月末まで噴火も観測されていない。

前回の提出資料の一部に新しい噴火イベントを加え、爆発地震後の噴火微動の継続の様子を比較した。今回は3月13日の噴火までを示したので、その後の3つの噴火を抽出して同様の図を作成した。3月13日の噴火は1000秒ほど噴火微動が継続したように見えるが、その後の3回の噴火については噴火微動の振幅は300秒ほどで噴火前のレベルに戻っている。噴火に伴う物質の放出が短時間で終了していることをうかがわせる。また、爆発地震の振幅も以前より小さくなってきている。

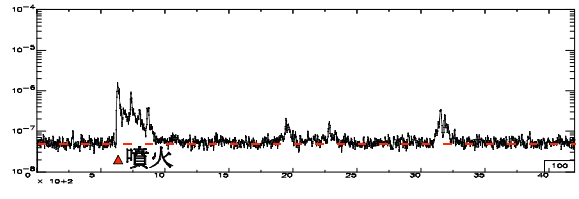
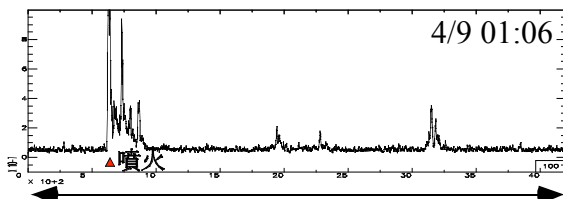
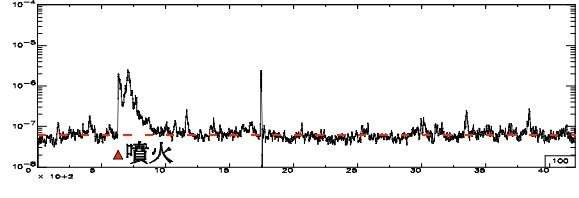
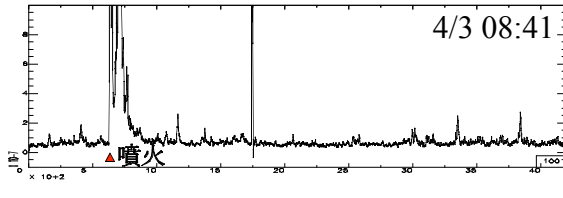
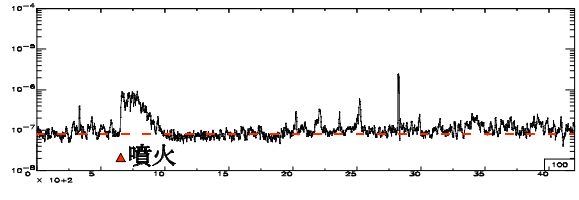
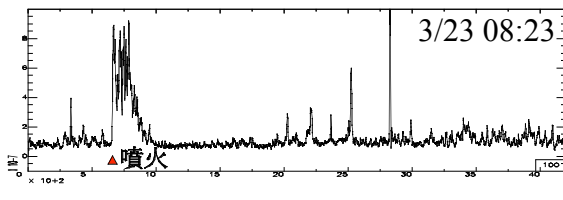
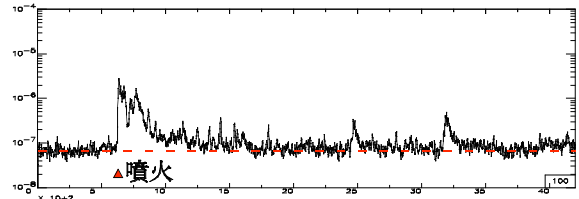
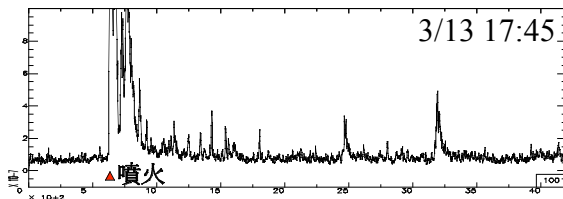
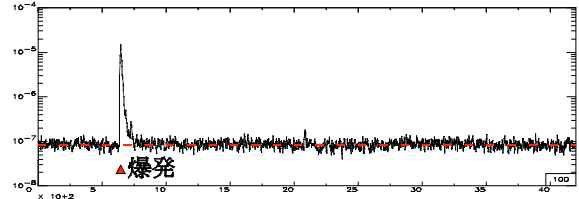
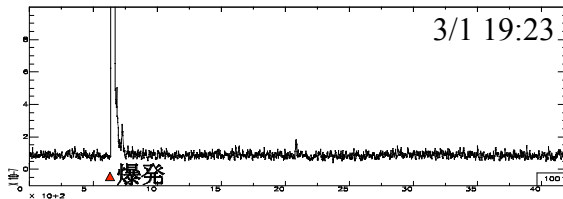
溶岩だまり形成前の爆発

振幅線形プロット

振幅対数プロット



3月以降の主な噴火



70min

(青山) (謝辞) 資料作成には、防災科学技術研究所Hi-net都城北観測点の地震波データをダウンロードして使用した。